いもこじ

第39号
〈発　行〉
日置地区
社会教育振興会
〈事務局〉
鹿児島
教育事務所

青少年の健全育成、伝統を生かしたふるさとづくりを目指す社会教育関係者の役割はどうあればよいか

日置地区社会教育振興会

5月29日(火)、日置地区社会教育振興会総会をいちき串木野市市来庁舎で開催しました。

会議では、田畑誠一会長（いちき串木野市長）が一人一人が心豊かに過ごせる安心・安全な社会の実現のために、社会教育振興会の活動を充実させていきたいとあいさつされました。その後、委員を代表して、いちき串木野市地域女性団体連絡協議会の塩屋かよ子会長に田畑会長が委嘱状を交付しました。

委嘱状を交付する田畑会長(右)

協議では、予算、事業計画、新役員等が承認されました。

両市から青少年健全育成の取組が紹介され、青少年の健全育成、長寿化社会への対応等、地区の社会教育、生涯学習を充実発展させ、ふるさとづくり・人づくりを進めていくことを確認しました。

☆本年度の努力点（抜粋）

生涯学習環境の充実

○ いもこじの発行（年３回）
○ 公民館経営研究会の実施
○ 子ども読書の日、子どもといっしょに読書の日に関する取組
○ 地区生涯学習推進大会の実施
○ 地域学校協働活動の推進
○ 明治維新１５０周年記念プロジェクト推進への協力

社会教育の充実

○ 人権教育の充実
○ 社会教育指導者の養成研修
○ 青少年教育の充実（子ども会活動の充実、ジュニア・リーダー及び高校生クラブの交流）
○ かごしま地域塾の展開
○ 家庭の教育力の向上（ＰＴＡ活動との連携による基本的生活習慣の確立、ＰＴＡ研修会の実施、九州ブロックＰＴＡ研究大会鹿児島大会への参加）

文化財保護の充実

○ 文化財少年団の支援
○ 伝統芸能活動の促進
○ 文化財マップの配布

新役員

【平成30年度役員】（敬称略）

会　長　田畑　誠一（いちき串木野市長）
副会長　荒田　修（鹿児島教育事務所長）
副会長　中木屋　豊（地区社会教育委員連絡協議会長）
監　事　草野　勝徳（日置市ＰＴＡ連絡協議会長）
監　事　桃北　紀和（いちき串木野市立市来小学校長）
監　事　有村　孝（いちき串木野市教育長）

日和下駄

きばっ子どん

「チェストキバレ！」は大河ドラマ「西郷どん」の終わりの場面である。趣味として、「さつま狂句」をしている私には響きの良い元気を貰う言葉である。

狂句は、鹿児島弁を使って五・七・五の17文字で人間模様を詠む。狂句では「きばっ」に二つの漢字を当てている。一つは「頑張っ」で「頑張る」「努力する」「やり抜く」の意味である。もう一つは、「我慢っ」で「我慢する」「耐える」の意味である。

これらは最近「非認知能力」として注目されている能力であるが、少子化や便利な社会の中では、育ちにくい能力であると思う。この能力を育てるには、子ども会活動やスポーツ活動の中で、また家庭生活の手伝いや学習の中で、親や大人が意識して機会や場面を設定して「きばった事」を認め、誉めることを繰り返すことが大切ではないだろうか。「継続は力なり」何事にも「きばっ子どん」たくましい子どもが育つことを期待している。

誉められて
勉強を頑張っ　我慢って見らじ
よか点数　本ぬ読ん

いちき串木野市社会教育委員の会
委員長　井之上　洋一

地区地域女性団体連絡協議会研修会

鹿児島教育事務所

6月26日(火)、いちき串木野市市来庁舎で地区地域女性団体連絡協議会の研修会を開催しました。

塩屋かよ子会長が「今年度の取組の重点の中から、青少年の健全育成について考えていきましょう」とあいさつをされました。

はじめに、いちき串木野市教育委員会の五反田晴夫社会教育課長補佐が青少年の健全育成の取組について講話を行いました。

分科会では、「地域全体での子育て・家庭教育の支援」について話合いを行いました。どのグループも豊富な経験をもとに積極的な意見交換が行われ、地域で育てる子育ての方策や安心して暮らせる社会づくりについて真剣に話し合いました。

全体会では、グループの発表が行われ、自分たちが実践できる取組を確認し合いました。地域で子供たちを見守っていきたいと思います。

グループ協議の様子

鹿児島市・郡・日置地区文化行政文化財保護審議会委員研修会

鹿児島教育事務所

6月21日(木)、日置市中央公民館で開催しました。

はじめに、日置市教育委員会吹上教育振興課の常田和彦主幹が「明治維新１５０年の取組」について発表をしました。県文化財課の井口俊二文化財主事、鮫島えりな文化財研究員から、県の文化財保護行政の説明や地区の取組について指導をいただきました。

現地研修では、日置市教育委員会の瀧川哲哉学芸員の案内で、日吉地域の赤山靭負の墓所や日吉歴史資料室を見学し、当時の時代背景や歴史史料の説明を受けました。参加者は貴重な史料に見入っていました。地区の歴史を知る有意義な研修となりました。

赤山靭負の墓所

地区内には多くの史跡や文化財があり、大切に保存・活用していきたいと思います。

みんなで進めよう人権教育、みんなで育てよう人権感覚

～Ｍｏｍ（見つめる、思いをめぐらす、向き合う）の基本姿勢で～

地区人権教育ブロック指導者研修会（鹿児島教育事務所）

6月28日(木)、地区人権教育ブロック別指導者研修会を日置市中央公民館で開催しました。

会には、地区社会教育委員連絡協議会会員、社会教育行政担当者ら、40人が参加しました。

講師の県教育庁人権同和教育課の川畑真英指導主事が、「みんなで進めよう人権教育、みんなで育てよう人権感覚」を演題に講演されました。

身の回りにある様々な人権課題の中から、子供の人権、同和問題等について、Ｍｏｍ「Ｍ（見つめる）ｏ（思いをめぐらす）ｍ（向き合う）」を人権教育の基本姿勢として、差別などの身の回りの様々な人権課題について考え、学習して人権感覚を育て、安心して暮らせる社会をつくってほしいと話されました。

川畑真英氏の講演

講演の後、グループで協議が行われ、人権について真剣な話合いが行われました。人権が尊重される社会にするために、人権について大人が子どもに正しく教えていくことの大切さ、日頃からＭｏｍの視点で考え、行動することの大切さ等を学びました。

最後に、「人権教育は、温かい人間関係の中でつくりあげていくことが大切である。課題から目を背けないで、勇気を持って行動してほしい。」と指導をいただきました。

グループ協議の様子

編集後記

平成最後の夏が来ました。豪雨犠牲者のご冥福をお祈りいたします。明治維新１５０周年の節目の年に、地区の社会教育関係行事も記憶に残るように充実させていきたいと思います。

（事務局　三浦）

「青少年育成の日」活動推進キャラバン

いちき串木野市教育委員会

いちき串木野市教育委員会と市子ども会育成連絡協議会では６月第３土曜日の「青少年育成の日」に各地区子ども会活動を訪問するキャラバンを行いました。

このキャラバンは、「青少年育成の日」の意義を再確認し、地域や子ども会の活動の活性化と地域で子供を育てる環境づくりの推進を目的に実施しています。

キャラバン隊はまちづくり協議会長、市子連役員、市教育委員、小・中学校校長・教頭、青少年育成推進員、教育委員会事務局で構成しています。

湊町地区では、キャラバン隊７人で七夕飾りづくりに参加しました。

飾りづくりの前に、地域の皆さんと子ども会の皆さんにメッセージ伝達を行った後、子ども会代表から「あいさつをしっかりとする、ふるさとを大切にする。」などの誓いのことばがありました。

湊町地区キャラバン隊

また、今年度から中学校の部活動が土日のどちらかが休日になり、中学生の参加が例年より増え、今後の活躍が期待されます。

本浦寺子屋塾

いちき串木野市教育委員会と本浦地区子ども会育成連絡協議会、本浦地区まちづくり協議会及び自治公民館主催で、６月30日に第１回「本浦寺子屋塾」を開催しました。

本浦交流センターを利用して夏休みなどの長期休業中や土曜日（第２・第３除く）に２時間程度、地域の方が講師になり地域資源（歴史、伝統、文化財、自然等）を活用して、昔遊びや地域に伝わる郷土芸能の伝承活動を行います。また、自ら学ぶ「自学学習の時間」も確保しました。

少子高齢化や核家族化が進展し、人間関係や地域の絆が希薄となり、家庭や地域の教育力の低下が叫ばれている中、地域全体で子供を育てることをねらいとしてこの事業は始まりました。

本浦寺子屋塾

本年度は年10回を計画し、本浦青年友好会による「相撲甚句」や、さのさ踊り保存会による「さのさ踊り」等の伝承活動も行う予定です。世話役の福岩宏基さんと末広幸一さんの「地域の子どもは地域で育てる」を合い言葉に楽しく活動しました。

市来大迫家住宅

市来大迫家住宅は、いちき串木野市湊町に所在し、大正５年（１９１６年）に建築され、竹田宮恒徳王殿下も宿泊された建造物です。地域を代表する建造物として、平成30年３月27日に国の登録有形文化財に登録されました。本市では最初の登録有形文化財となります。

大迫家住宅のある湊町は中世から貿易港として栄えた地域であり、文化年間から始まった祇園祭など伝統芸能や歴史を色濃く残す港町です。今回の登録を契機に、本建造物を、後世に残すべき大切な文化財として、保存・活用していく予定です。

なお、個人住宅のため一般公開はしておりません。

市来大迫家住宅

中之島御岳（おたけ）太鼓

（中之島小・中学校）

十島村教育委員会

中之島御岳太鼓は、平成20年に発足し、島の自慢であり、学校活動であると同時にＰＴＡ活動の一環でもあります。

児童生徒20名で毎週木曜日の放課後や週休日等に、中之島のシンボルである「御岳」をイメージしたオリジナル曲を含め、絶えず数曲の練習をしています。

基本的に中学生が、お腹に響く重低音が大迫力の長胴と曲にアクセントを加える担ぎ桶を、小学生が軽やかなリズムを刻む立ち締めと座り締めを担当しています。また、曲によって太鼓を代わるなど上級生が下級生に教えています。

この太鼓は、地域行事の運動会や文化祭、トカラマラソン、教職員の転出入等で披露しています。

来島される方々や教職員は、フェリーを下りる前から響き渡る児童生徒の演奏する太鼓のリズムに感動しているようです。

教職員歓迎の演奏

日置市にある「有馬新七の墓」

日置市教育委員会

幕末の志士有馬新七は、１８２５年、伊集院郷士坂木家に生まれました。父が鹿児島城下士有馬家へ養子入りし、新七も有馬姓となりました。現在、生家近くには生誕碑がたっています。

薩摩藩の急進的尊皇攘夷派の中心的人物として知られ、各地の同志と交流し、倒幕挙兵を計画。１８６２年、京都寺田屋で決起中止を説得する薩摩藩士との壮絶な斬り合いの中で、果てました。

血気盛んなイメージが強い新七ですが、その経歴をみると文武に秀でた人物であったことが分かります。新七は、幼い頃から漢籍や国学、神影流剣術などに励み、江戸や京都へ遊学。江戸藩邸や藩校造士館で講義を行っています。

新七の墓は、京都と鹿児島にあり、京都伏見の大黒寺の墓碑は、有馬の死を悼んだ西郷の揮毫（きごう）です。

有馬新七の墓碑

一方、鹿児島南林寺の墓は、大正期に故郷の伊集院に移転され、現在、市指定文化財となっています。この墓近くの伊集院中学校の校訓「美（うるわ）しき魂」は、新七遺稿「時体考」からの言葉です。

第10回日置市子ども読書活動推進大会

日置市民総ぐるみの読書活動の推進を図ることを目的に、６月23日（土）に日置市伊集院文化会館で開催されました。

オープニングでは、日置市ジュニアオーケストラの皆さんが、「西郷どん」のメインテーマ等２曲を演奏し、一気に会場を盛り上げてくれました。

開会式では、第２期日置市民推薦図書２００冊リストスタンプラリー達成者の中から、３人の代表児童に認定証が授与されました。

まこて三太郎の影絵

ビブリオ合戦（小学生）

はじめに、日置市立ふきあげ図書館ボランティアグループ「ぽけっとファンタジー」が、４人の児童と一緒に、影絵「まこて三太郎」を実演しました。児童たちは練習の成果を見せ、流暢な鹿児島弁で発表してくれました。

次に、第10回を記念して初めて「ビブリオ合戦」を行いました。通常のビブリオバトルではなく、日置市特別ルールのもと、小学生の部に４人、中学生の部に７人が出場し、チャンプ本を決めました。子供たちの熱い論戦に、会場の皆さんも聞き入っていました。

最後に、作家の柳田理科雄氏が「読書は夢への扉」の演題で、アンパンマン、サザエさん、ドラえもん等のテレビでお馴染みのキャラクターを題材にした空想科学の話や、風船を使った理科実験で、会場は笑いの絶えない楽しい講演会となりました。

ビブリオ合戦（中学生）

柳田理科雄氏の講演

「特攻平和祈念祭」

三島村大里・片泊地区

三島村教育委員会

三島村黒島で、５月12日に「特攻平和祈念祭」が行われました。

太平洋戦争末期、本土から沖縄方面に向かう特攻機の通過点であった黒島にエンジントラブルで４機が墜落、６人が救助。島民は、食料を与え看病するなど隊員を献身的に支えました。今回で15回目を数える慰霊祭には、島民や遺族ら約１００人が参加。船上慰霊祭、海上自衛隊Ｐ３Ｃ哨戒機の慰霊飛行、そして特攻観音で戦没者に黙祷を捧げました。

夜は、大里小中学校の子供たちによるジャンベ演奏で「はなむけの宴」が幕開け。余興では子供たちが合唱・俳句を披露しました。盛り上がった会場では、参加者も一緒に「翼をください」を合唱。

最後に「のぼるチンダイサン」を全員で踊り、幕を閉じました。平和を語り継ぐ貴重な行事の一つになっています。

「翼をください」の合唱